神戸大学　地域密着型サークル　にしき恋

地域密着型サークルにしき恋は、兵庫県丹波篠山市西紀南地区で地域活性化をモットーに活動している神戸大学のサークルである。

活動のきっかけ

写真１　「にし恋 Farm」にて　2018/10/20

にしき恋は２０１３年に結成された。きっかけは神戸大学農学部の実践農学入門という授業。週末に農家さんの元で１年に渡り農業の現場を学ぶ授業だ。この授業は丹波篠山市の様々な地域で毎年場所を変えながら行われている。２０１２年度に西紀南地区でこの授業を受けた当時２年生の学生数名が、授業だけで農家さんとの関係を終わらせたくない、授業でお世話になった農家さんに恩返しがしたいという思いから、大学の先生や地域の方々の協力を得て２０１３年１月に「にしき恋」を立ち上げた。名前の由来は、「西紀に恋してみんな来い」。結成当時は神戸大学農学部の十数名の学生が所属しており農家さんのお手伝いである「農業ボランティア」を中心に活動していた。

今年で７年目を迎え、現在１８５名の学生が所属している。メンバーのうち、神戸大学農学部の学生が５割だが、神戸大学の全学部の学生が所属しており、他大学の学生も１割いる。丹波篠山で就農したにしき恋 OB も数名いる。

活動目的

西紀南地区の地域活性化

活動内容

活動内容は大きく分けて３つ。農家さんのお手伝いである「農業ボランティア」と、丹波黒大豆の生産販売、地域活性化を目的とした様々なプロジェクト活動だ。

（農業ボランティア）

写真２　農家さんに農具の使い方を教わる様子
2018/7/21

農業ボランティアはにしき恋の主軸となる活動で、毎週末土日祝日に行なっている。西紀南地区の農家さんのところに学生２、３人で行き、農家さんの作業のお手伝いをする。毎回１５名ほどの学生が参加しており、２０１７年度には延べ約１５００名が参加した。

学生にとっての農業ボランティアの醍醐味は、農作業の知識習得に加え、豊かな自然に囲まれた場所で農家さんや仲間とともに充実した休日を過ごせることだ。農作業や昼

食の時間を通して人生経験の豊富な農家さんと、たわいもないことから奥の深いことまで、たくさんお話しできる。中には大変な作業もあるが作業を終えた時に、農家さんや仲間と一緒に味わう達成感は一入だ。学生は農業ボランティアを通して、農作業の大変さと田舎の良さを学ぶ。また、農家さんにとって農業ボランティアは、今までにはなかった、学生と交流できる場である。西紀南で学生が農業ボランティアを始めたことがきっかけで農業を再開した農家さんもいる。受け入れ農家さんも年々増え今では３０組ほどだ。今後も毎週欠かさず農業ボランティアを続けていくつもりだ。

丹波黒大豆生産販売

丹波篠山の特産品である丹波黒大豆。特に西紀南の川北は丹波黒大豆発祥の地として有名だ。にしき恋では、農家さんからお借りしている畑（通称「にし恋Farm」）で、丹波黒大豆を育てている。農学部の授業や農業ボランティアで得た知識を生かして、農家さんの協力を得ながら学生主体で丹波黒大豆の世話をする。

写真３ にし恋 Farm 2018/7/21

収穫した豆は黒枝豆として、神戸大学や、大阪、京都、東京などの都市部のマルシェで販売している。丹波黒大豆の魅力を学生や都市部の人などより多くの人々に知ってもらい、丹波篠山の地域活性化に繋げることが目的だ。

写真４ 大阪のマルシェにて　2018/10/13

また、黒枝豆の卸先を獲得するための交渉も行なっている。今までに居酒屋や老人ホームで卸すことが実現した。今はにしき恋の黒枝豆を卸しているが、将来的には農家さんの販路拡大につなげたい。

さらに今年度はにし恋 Farm を利用して新たな取り組みに挑戦する。黒枝豆の収穫時期である１０月に神戸市周辺の小学生と親御さんを対象ににし恋 Farm で収穫体験と収穫した黒枝豆を使用した料理教室を実施する予定だ。都市部の子供達に農業の楽しさを身近に感じてもらうことが目的だ。

プロジェクト活動(通称「P 活動」)

「P 活動」とは、西紀南の課題解決と地域活性化を目的として、学生自らの興味や関心、知識を活かして取り組む活動だ。現在 10 以上の P があり、各 P10 人ほどのメンバーが所属している。以下いくつかの P を取り上げ具体的に紹介する。

・小学生交流 P(今年で 7 年目を迎える P)
年に数回地域の小学生との交流会を企画運営している。また、毎年 2 月に西紀南小学校で小学生に向けて地域学とキャリア教育についての授業をしている。

写真 5　小学生交流。公民館で小学生に英会話を楽しく教える様子。　2019/8/24

・中学生交流 P(3 年目)
西紀中学校で年に 2 回、一週間程度、スクールアシスタントとして授業のサポートをしている。校長先生からは、単クラスでクラス替えのない中学生が定期的に大学生と交流することで人間関係に新たな刺激を得られると評価いただいている。

・駅 P(2 年目)
西紀南の最寄駅である無人駅、JR 丹波大山駅の活性化を目的とした P。駅の掃除をしたり、JR さんのご協力のもと待合室の使用されていなかったポスター枠をお借りして、駅周辺の魅力や風景写真、にしき恋の活動についてまとめたポスターを掲示したりしている。掲示物は季節に応じて年に 4 回ほど更新している。さらに、今年 5 月には丹波大山駅でマルシェを企画運営した。いつもお世話になっている農家さんにも農作物を販売してもらい、地元のカフェやレストラン、にしき恋運営の縁日コーナーやジビエ料理と合わせて、約 20 店舗が出店した。500 人以上が来場し、普段は静かな無人駅が活気に溢れ地元の方々に喜んでいただいた。次回は 9 月と、今後も定期的にマルシェを開催していく予定だ。

写真 6　駅 P ポスター
2018/9/8

写真 7　駅 P マルシェ　2019/5/12

・ジビエ P(2 年目)
篠山は鹿による農作物への獣害が多い。獣害の正しい知識を広めること、鹿肉の美味しさを多くの人に知ってもらうことを目的としている。狩猟現場の見学や、ジビエパーティーの企画、SNS で若者に向け獣害やジビエに関する情報発信を行っている。昨年の神戸大学の文化祭では、鹿肉を食べたことのない大学生をターゲットに、鹿肉で作った串カツを４００本販売した。今は企業と協力して鹿肉を使った商品開発を進めようとしている。

写真 8　ジビエパーティー
2019/6/29

・竹 P（2 年目）

主な活動は竹林整備。伐採した竹は、農作業に使う竹杭にしたり、細かく砕いて窯で焼き肥料にしたりしている。また、竹笛や竹箸、竹とんぼなどの竹細工づくりにも有効活用している。さらに、子供に竹を身近に感じてもらうことも目的に、小学生交流で竹を使って流しそうめんをしたり、丹波大山駅のマルシェで子供向けに竹箸づくりのワークショップを行ったりした。

図 9　竹林伐採
2019/4/27

・広報 P（7 年目）

丹波篠山の魅力、農業の楽しさ、丹波黒大豆の美味しさを発信するために様々な媒体を用いて活動している。SNS での若者に向けたにしき恋の活動紹介、ブログでの一般の人に向けた篠山の自然の紹介や農作業の日記公開、丹波篠山黒枝豆を紹介する冊子作りを行っている。

最後に

にしき恋はいつも温かく応援してくれる地域の方々に支えられて活動している。「学生が楽しくてしていることが地域の方々から感謝されている」これがにしき恋の、西紀南に根付き農業ボランティアという幹を太くしつつ、年々活動の幅を広げていっている所以である。これからも地域の方々に愛され続けるにしき恋であるよう末永く活動していく所存だ。

図 10　にしき恋コーディネーター役の地域の方に感謝を伝える会
2018/12/15

（以上）